

2024

2.7 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_OsijBVCISleeKoDfg114ug](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_OsijBVCISleeKoDfg114ug)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# サービスデザインとはなにか？ 自治体、企業、大学における実践

司会：銭 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



## Key Words

サービス・デザイン

イノベーション・マネジメント

新規事業構築

徳久 悟 准教授

芸術工学研究院



1978年山口県生。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。2007年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士（政策・メディア）。SDN Accredited Service Design Master。慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任講師、takram design engineering アソシエイトを経て、2019年より九州大学大学院芸術工学研究院准教授。ヒューマン・コンピュータ・インタラクション、サービス・デザイン、イノベーション・マネジメントに大きな関心を持つ。人間中心設計、サービス・ドミナント・ロジック、エフェクチュエーションを活用した新規事業構築を実践。主著に『地域発イノベーションの育て方ーリソースから紡ぎ出す新規事業』がある。

研究成果は、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション分野のトップ・カンファレンスである SIGGRAPH や CHI で採択され、SIGGRAPH Emerging Technologies (2003年、2005年)、文化庁メディア芸術祭 (2004年、2007年)、Asia Digital Art Award (2005年、2008年)、FILE (2007年、2008年)、Laval Virtual (2006年、2008年)、U-35 Creators Japan (2013年) など、数々の挑戦的な国内外のコンペティションに参加し、受賞してきた。

現在の研究テーマは、サービス・ドミナント・ロジックを用いたサービス・デザイン・フレームワーク、低所得国における持続可能なイノベーション・フレームワーク、アート思考や意味のイノベーションなどの内発的デザイン手法、複数のサービスロボットを含む人間と非人間のサービスのデザイン手法などがある。

本講演では、サービスデザインとはなにか？という問いに対して、サービスとはなにかという説明から初め、サービスデザインの歴史的変遷を説明し、最新の定義を紹介します。

その上で、自治体、企業、大学といった様々な連携先、さらには、地方都市、低所得国といった様々な実施場所の観点から、過去の実際のプロジェクトを題材として、サービスデザインの具体例を紹介します。本講演を通じて、参加者がサービスデザインに関心を持ち、実践につなげていくためのきっかけとなれば幸いです。

2024

2.14 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_pPEMiCZDQ\\_2SnDHIb1K3WA](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_pPEMiCZDQ_2SnDHIb1K3WA)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

## 発達障害と心理的バリアについて

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

発達障害

社会モデル

態度

横田 晋務 准教授

九州大学 基幹教育院 自然科学実験系部門

専門は発達障害学、認知神経科学です。2013年に東北大学にて博士号を取得後、東北大学加齢医学研究所にて、子どもや発達障害児を対象とした脳機能や脳形態に関する研究やIQなどの認知機能と脳形態との関係などについて研究を進めてきました。2017年に九州大学に着任後は、主に発達障害における社会的なバリアに焦点を当て、発達障害者を取り巻く周囲の存在が発達障害に対してどのような態度や印象を持っているのかという点について、研究を進めています。

また、九州大学キャンパスライフ健康支援センターインクルージョン支援推進室にて障害者支援に携わっています。

発達障害児・者は社会的なコミュニケーションが苦手だったり、コミュニケーションの仕方が独特であるため、他者と人間関係を築いたり、適切に維持したりすることが難しく、発達障害のない人に比べて約4倍も社会的な排斥（いじめなど）を経験すると報告されています。

このような問題に対し、障害の個人モデルでは、障害者個人の障害特性を問題とする一方で、社会モデルにおいては、障害を個人と社会との間の障壁と捉えます。上述の社会的排斥については、発達障害者のコミュニケーションの取り方に対して異質なものと考える周囲の心理的なバリアこそが問題であると考えられます。

プレゼンテーションでは、発達障害者に対する周囲の心理的なバリアとして、発達障害に対する態度についての研究成果を紹介し、心理的バリアをどのように解消できるのかという点について考えてみたいと思います。

2024

2.21 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_vpLtWtjkT22MxqP5z5HJUw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_vpLtWtjkT22MxqP5z5HJUw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 廃水からのエネルギー回収の可能性と 回収システムへのナノテクノロジーの統合

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

ナノテクノロジー

嫌気性消化

微生物燃料電池

廃水処理

エネルギー回収

## エルジャマル オサマ 准教授

九州大学 総合理工学研究院 環境理工学部

オサマ・エルジャマル先生は、九州大学大学院総合理工学研究院 (IGSES) で環境理工学の准教授を務めています。1997年にパレスチナのIUGで土木工学の学士号を取得。2006年九州大学大学院工学研究院で修士課程修了、2009年九州大学大学院工学研究院で博士課程修了(環境工学)。2009年4月から2010年10月まで日本学術振興会特別研究員として九州大学大学院工学研究院地球資源システム工学部門に在籍。2010年に九州大学大学院生物資源環境科学府に助教として赴任。その後、2014年に九州大学大学院総合理工学府准教授に昇任。2011年6月から2018年9月まで数回、カナダ・ウォータールー大学化学工学科に客員教授として参加。また、2019年1月から2019年10月まで英国オックスフォード大学工学部客員教授に就任。

ナノテクノロジーは、表面積が大きいというその独特の特性を効率的に利用して、エネルギー回収リアクター内の化学反応および生化学反応を促進できるため、廃水からのエネルギー回収に使用できる大きな可能性を秘めています。都市部では大量の廃水が発生するため、周辺環境に排出する前に注意深く処理する必要があります。従来の廃水処理施設(WWTP)の主な目的は、廃水から汚染物質を除去することであり、そのためには公共エネルギー配電網から大量のエネルギーを取り入れる必要があります。一方、廃水にはかなりの量の有機物が含まれており、再生可能エネルギーの潜在的な供給源として考えることができます。WWTPを通してエネルギーを回収する様々な技術が、世界中の研究者によって検討されています。利用可能な技術の一つは嫌気性消化(AD)で、有機物をバイオガスエネルギーに変換する生物学的プロセスです。微生物燃料電池MFCは、微生物の自然な代謝を利用して有機物から直接電力を生産する、もう一つの生物電気技術です。

2024

2.28 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_ihsqnvCbSaWE27\\_9G1guYg](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_ihsqnvCbSaWE27_9G1guYg)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

## ゲーム理論と国際関係

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

16

平和と公正を  
すべての人に

17

パートナーシップで  
目標を達成しよう

Key Words

国際関係

リアリズム

リベラリズム

囚人のジレンマ

スタグハントゲーム

李 鍾成 学術研究員

アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS)

韓国ソウル市出身。2005年に韓国・仁荷大学社会科学部政治外交学科を学部次席で卒業し、同大学大学院で修士課程を修了しました。その後、国立放送通信大学助教、国際関係研究所研究員として在籍しました。学部時代は日韓外務省主催の訪日プログラムに参加したことがあります。2010年に日本で勉強をしたいと思い、渡日。2018年には九州大学大学院法学府にて博士(法学)を取得しました。2017年より同大学法学部の助教に、2019年からは協力研究員になりました。2022年からは、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構の学術研究員となり、現在に至ります。研究テーマはアメリカの外交と日米関係、そして国際関係理論で、とりわけ国際関係理論で国家関係を分析する作業を行っています。

国際社会の諸現象を理解するにあたっていくつかの視角があります。その中でもリアリズムやリベラリズムが代表的な分析視角と言えます。リアリズムは国際社会の無政府性に注目し、人間の利己心や国家のパワーによる国家関係を捉えようとしています。一方、リベラリズムは国家間の協力を重視し、人類全体の利益(平和)と国家間の協力という観点で国際社会を理解しようとしています。このような視角はゲーム理論に密接に関係しています。講演では、ゲーム理論を紹介し、近年の国際 이슈についてお話しします。